



日本私立歯科大学協会広報

第81号
令和3年3月

目次

〈巻頭言〉

歯科医学教育におけるオンライン教育の可能性と限界

古市保志……………2

〈大学のニュース〉

○北海道医療大学歯学部

・第68回 JADR 総会・学術大会で
IADR Hatton Awards 候補者
(JADR 最終候補者) に選出……………7
・本学における多職種連携教育の取り組みに
関する発表が学会賞を受賞……………7

○岩手医科大学歯学部

・解剖体慰霊祭が行われました……………7
・全人的医療基礎講義が行われました……………8
・第53回動物慰霊祭が行われました……………8

○奥羽大学歯学部

・献体者合同慰霊式・実験動物供養……………8
・自習室の環境整備……………9
・休日・夜間時の自衛消防訓練……………9
・病院の売店がリニューアル……………9

○明海大学歯学部

・順天堂大学と包括的連携協定を締結……………10
・ホワイトコートセレモニー開催……………10

○東京歯科大学

・第310回東京歯科大学学会(総会)開催……………11
・2020年度解剖諸霊位供養法会……………12
・台北医学大学口腔医学院と遠隔講義を実施……………12
・カリフォルニア大学ロサンゼルス校
歯学部/工学部 西村一郎教授(ワイントロープ
再生生体工学研究所)による遠隔授業を実施
……………13

○昭和大学歯学部

・入試選択科目に国語を採用
インターネット出願導入も……………13
・新たな教育施設「卒後研修棟」着工
安全祈願祭を執り行う……………13
・歯科補綴学講座から2名受賞
—日本補綴歯科学会第129回学術大会—……………14
・富士吉田キャンパスの思い出……………15

○日本大学歯学部

・前期遠隔授業を終えて……………15

○日本大学松戸歯学部

・令和2年度 大学院3年次 研究経過報告会 ……16
・令和2年度第4回オープンキャンパス
—「ハイブリッド型」で開催—……………16

○日本歯科大学生命歯学部

・発生・再生医科学講座
英国 幹細胞専門誌に発表……………17
・木場寮を改修……………17

○日本歯科大学新潟生命歯学部

・バランス栄養食缶詰を開発……………17

○神奈川歯科大学

・唾液力!……………18
・まほろしの応援歌……………18
・羽田空港第3ターミナル歯科……………18
・PCR 検査の実施……………19

○鶴見大学歯学部

・歯塚供養……………19
・斎藤一郎歯学部教授
第109回日本病理学会総会日本病理学賞を受賞
……………19

○松本歯科大学

・校友会より母校へ熱い援助
—病院前に診療用テントほか寄贈—……………20
・キャンパス内の芝地で活躍!
—賢くてけなげな働き者—
スウェーデン製自動芝刈り機……………21
・第7回カムカムメニュー・写真コンテスト
最優秀賞は「W大根ハンバーグ」……………21
・冬の夜空を彩るイルミネーション点灯
—「感謝と希望」をテーマにコロナ収束願う—
……………21

○朝日大学歯学部

・White Coat Ceremony 2020……………22
・臨床系実習室リニューアル……………22
・メキシコ州立自治大学歯学部生と
オンラインで交流……………22
・医科歯科医療センターで研修会……………23

○大阪歯科大学

・歯学部5年の花岡麻里子さんが
歯科基礎医学会「学生ポスター発表優秀賞」を
受賞しました……………23
・大阪歯科大学 高大連携プログラム
オンライン体験授業を実施しました……………23

○福岡歯科大学

・学校法人福岡学園の役員・評議員を改選
水田祥代氏を理事長に再任……………24
・福岡歯科大学医科歯科総合病院
9月29日新病院開院……………24
・福岡歯科大学医科歯科総合病院に
健診センターを開設……………25
・福岡歯科大学成育小児歯科学分野が
実習用小児患者型ロボットを共同開発……………25

〈事業概要〉

○理事会……………26

○事務局長会議……………30

○第11回歯科プレスセミナー……………31

〈日本私立歯科大学協会関係の諸会議〉

○第46回全国私立歯科大学・歯学部附属病院
看護部長会……………32

○第25回日本私立歯科大学・歯学部附属病院
歯科技工士協議会……………32

○令和2年度全国私立歯科大学・歯学部附属病院
診療放射線技師代表者会……………32

〈叙勲〉……………33

〈計報〉……………33

〈人事異動消息〉……………33

〈協会役員・部会・委員会名簿〉……………37

〈賛助会員企業紹介〉……………41

〈一般社団法人 日本私立歯科大学協会加盟名簿〉 ……42

〈編集後記〉……………42

巻頭言

歯科医学教育における オンライン教育の可能性と限界

北海道医療大学歯学部長
古市保志



はじめに

2020年という年は、多くの個人・組織・団体にとって、先の読めない1年となった。振り返ってみると、この1年間の歯学教育活動には、デジタル通信に関連した技術および機器の発展とインターネットの普及によってオンライン教育の導入が可能となったことが大きな役割を果たしている。今回の巻頭言では、コロナ禍での本学歯学部1年間の振り返りながら、オンライン教育の可能性とその限界について考えてみたい。

1. 本学の1年

昨年（令和2〈2020〉年）1月28日に、北海道における新型コロナウイルス感染者が初めて公表された。その後、札幌雪祭りの期間明けから感染の第一波が始まり、2月末までに70名の感染者が報告されている。全国より早く感染者が急増したことから、北海道では2月下旬に道独自の緊急事態宣言が発出された。マスク・手洗い・消毒の徹底、不要不急の外出の自粛、3密の回避、時差出勤など、未だ経験したこと

のない不安定な社会状況の中、暗中模索の日々が始まった。

本学でも前年度の後期定期試験の日程終了直後の3月初めから、全ての学生のキャンパス内立ち入りが禁止となった。教員には、その日を境に4月からのオンライン講義の開始に向けて準備が始まった。1か月弱の期間で様々な準備を行い、4月2日からは高学年に対して、5月連休明けからは残りの学年に対してオンライン講義を開始することができた。そして、緊急事態宣言が解除された6月中旬からは、1/4～1/5程度の登校学生への面接講義と残りの学生に対する遠隔講義の併用によるハイブリッド方式の講義を開始した。さらに、9月からは面接講義受講者の割合を1/2に増やしてハイブリッド形式を継続し、第1波より遥かに大きい第2、3波を経験しつつも、2月初めに全講義日程をほぼ終了し、今日に至っている。

基礎系科目の実習に関しては、前期に組み込まれている人体解剖実習などの数科目を対面で実施し、後期は他の科目においてもオンライン併用によるハイブリッド型の実習とした。臨床

系基礎実習は、5月連休明けに開始し、6月中旬までは1/2の登校で同じ内容を2度行い、それ以降はカリキュラム通りに全員登校として実施することができた。臨床登院実習に関しては、6月中旬まで本学附属診療施設における外来診療が制限されたことから、臨床推論の講義・演習、ファントム実習などが行われた。その後、登院する学生に対して学内で独自のPCR検査を実施し、陽性反応がないことを確認してから、外来での臨床実習が行われた。

以上のように、1年間、札幌と北海道のみならず全国そして海外の感染状況に関する情報収集を行い、厚生労働省、文部科学省、外務省から発出される関連対応マニュアルやガイドラインを参考に、その時々で選択しうる最善の方策を講じてきたつもりである。

以下に、この1年間に蓄積されたICTおよびオンライン併用の教育に関するノウハウ、およびその利点・欠点を考察したい。

2. 円滑なオンライン教育を行うために

1) 学内ネット環境

6学部9学科1専門学校を有する本学では、以前より学生教育におけるICTを利用した取り組みを充実させるために情報推進センターを設置し、学内ネットワークのインフラ構築と整備に取り組んできた。しかし、2019年度までのICT利用による教育は、各学部や学年ごとに個別にそして補助的に行われており、オンタイムで全学に一斉にオンライン配信を行った経験はなかった。そこで、昨年4月初めに全学生の参加の下、一斉ネット接続によるサーバーへの負荷テストを実施した。結果、一時的なサーバーダウンが見られたが、補助動作へのパッチを充てることによって、再度のテストではサーバーダウンすることなく配信可能であることを確認した。このテストが、本学におけるオンタイム一斉同時配信遠隔講義の実施に向けて大きな第一歩であった。

今回の経験から、配信数や配信情報量の増加

によってネットに対する負荷が高くなることが再確認され、大学全体として大容量のネット回線を整備する必要があることが示された。また、Zoomによる動画配信の際、本学のネット環境では、受講者に配信される動画がコマ送りのような状態になってしまうことが問題点として挙げられた。これはZoomを介した際に動画処理が遅延することに起因すると考えられ、その改善の必要性が課題として挙げられている。

2) 学生のネット環境

本学では、ノート型パソコンを必携化としていたのは一部の学部だけであり、歯学部では推奨はするものの必携とはしていなかった。また、通学地におけるネット環境がオンライン講義視聴に適したものであるか否かの情報がなかった。そこで、3月下旬から4月にかけて、通学地でのパソコンやスマートフォンの使用状況、およびネット環境について調査を行った。同時に、聴講のために推奨される環境について保護者に案内を送付し、機器や環境の不備による講義視聴への支障が生じないように整備を依頼した。6月には、ネット環境整備資金として、全学生に1律5万円の補助が行われた。

今後、ICT活用による教育を充実させてゆくには、受け手側の学生の通学地における大容量・高速ネット回線の整備は必須であり、その整備のための学生支援も重要な課題であることが確認された。

3) 配信プラットフォーム

講義のオンタイム配信には、Zoomが用いられた。Zoomアカウントは、各学部で必要数を調査した後、全学で一括購入した。講義関連のレポートはGoogle Formに提出課題が提示され、学生からの回答が収納されるようにした。各Zoom講義は、全てMP4による動画にエンコード後、Google Driveにアップロードし、感染症疑い等による公欠扱いの学生用にオンデマンド視聴用のバックアップ教材として活用した。Google Driveへのアクセス権は、全学で管理している学生個人のGoogleアカウントか



図1 スタジオ方式による遠隔講義配信の様子
手前に配置されているサポート人員は段階的に減少させた。



図2 ハイブリッド方式による講義の様子
登校人数は、開始時は1/5程度、その後、最大1/2と感染拡大状況に合わせて調整を行った。

らのものに限定することでセキュリティの強化を図った。

開始当初は、教員側が不慣れであったこともあり、機器やZoomの接続などにトラブルが発生した。そのようなトラブルの解決のために、全ての学年のオンライン講義がモニターできる遠隔講義管理運営室を設け、ICTに詳しい教員3名を遠隔講義管理の責任者として指名、さらに遠隔講義サポート教員を6名程選出し、そのうちの1名が必ず日替わりで管理室に常駐し、遠隔講義のサポートを行うことで対応した(図1)。このような対応によって、後半はトラブル発生も減少し、円滑な運用が行われた。

オンライン教育の継続には、適切なマニュアルの作成および関連研修会の定期的な開催などを行い、トラブルシューティングへの万全を期した準備を行っておく必要がある。

4) 配信形態

配信用ホストPC、学生視聴画像確認用のPC、さらに希望があれば各講義担当者の持ち込みPCを共同ホストとして使用し、Zoom配信を行った。自宅から配信の場合は、学内のPCの指定の講義室に入室し、共同ホストとしてそこから配信を行った。聴講は、履修予定のある学生に限定された教室の入口を学生および教職員のポータルサイト上に設定し、登録された学生・教員のみが聴講・入室できるようにし

た。オンライン講義のみが行われた期間は、比較的小さい演習室に機器を設置した配信スタジオを設け、そこから配信を行った。ハイブリッド方式の講義が行われた期間は、教卓上に機器を設置してそこから対面講義とオンタイムの遠隔講義が同時に行われた(図2)。

スタジオ方式では、講義スライドをホワイトボードに映写し、その映写画像と説明を加えている講義担当者を撮影したビデオ映像がオンタイムで配信されたことから、より臨場感のある講義になったと考えられる。しかしながら、ハイブリッド方式では対面聴講者への講義を同時に行わなければならないことから、PC画像に音声をつけて配信することになり、スタジオ方式での講義より臨場感が弱まった感のある講義になったことは否めない。

5) 出席確認

出席確認は、ZoomのチャットおよびGoogle Formを用いて、また、ハイブリッド講義では登校学生に対する座席表での確認を併用して、出欠の確認を行った。オンライン環境での出欠確認には、ネットの不具合発生の可能性をゼロにできないことから、複数の手法の組み合わせによる出欠確認が必要である。

6) 講義資料

教授効率の高い講義の実践には、適切に作成された講義資料の配布・使用が欠かせない。年

度初めは、学生の登校が許されない中で講義が開始されたことから、講義資料の印刷体を事前に郵送し、Google Driveにはバックアップ用としてそれらの講義資料をアップロードした。年間に使用する講義資料の量は莫大であることから、遠隔講義の場合でも何らかの方法で資料を事前配布することが望ましい。一方、デジタル資料のみの配布とするには、学生側PC性能の均一化、そして教員側にはデジタル資料に特化した作成時の工夫などが必要となる。また、オンライン講義には、著作権の保護に関して注意を払う必要があり、文化庁によるシンポジウム資料などを講義担当の全職員に周知し徹底を促した。

7) 双方向性の担保

遠隔講義の開始時より、カメラとマイクの活用による遠隔学生とのオンタイムでの会話、あるいはチャット機能を用いた質問の受け付け、等によって講義の双方向性の担保を目指してきた。講義では、有形・無形での学生と教員との双方向性の担保は極めて重要である。しかしながら、遠隔講義でそれを行うには教員側の訓練と経験が必要である。よりよい双方向性の講義の実践のためはFD研修や模擬講義等の定期的な開催が不可欠である。

8) 実習

歯科医学教育におけるオンライン教育を具現化するにあたって最大のチャレンジは、実習への応用である。術者による説明や指導はオンラインでも実現可能であることから、説明系や指導系の実習ではオンラインの利用が可能と考えられる。

今年度、本学では、感染症対策の一環として、模擬患者さんによる医療面接実習にオンラインでの医療面接を導入した(図3)。限られた時間とリソースの中でいかに効率よく学生にオンライン面接の場を提供できるかを念頭に工夫を行い、実施に多くのノウハウを得ている。今後、今回得られた経験を基にさらなる改良を加えてゆく予定である。その一方、歯科医療に



図3 オンライン面接の実習風景
別室の模擬患者さんとPCおよびタブレットを介して医療面接を行っている。学生間には透明のアクリル板を配置している。

おいては、技術系診療行為の占める割合は大きい。今年度の技術系実習に関しては、録画素材の配信と視聴を対面実習の事前確認のために用いるに留まった。

現在注目を集めているロボットやVRなどの媒体を用いたシミュレーション実習に関しては、臨床実習前実習における導入ではそれらの特性によって高い教育効果が期待され、その発展が望まれる。しかしながら、技術系診療における臨床実習生の自験へのオンラインの活用には、多くの課題が残っている。

最後に

近年はSNSの利用など、個人間のコミュニケーション手段が多様性している。そのような社会背景におけるデジタルツールを用いた遠隔での講義や実習の実践には、その利点と欠点を学生と教員が十分に理解して、より効果的な活用を目指した取り組みが必要である。

私立歯科大学協会の会員の皆様方には、今後とも情報の共有をお願いするとともに、歯科医学教育の今後の益々の発展を祈念して、稿を終えさせていただきます。

参考資料

- 1) 学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～(2020.12.3 Ver.5). 文部科学省 (https://www.mext.go.jp//content/20201203-mxt_kouhou01-000004520_01.pdf)
- 2) 新型コロナウイルス感染症対策に伴う学校教育における ICT を活用した著作物の円滑な利用について. 文化庁 (<https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/92080101.html>)

〈筆者の略歴〉

- | | |
|-------------|--|
| 1985 年 3 月 | 鹿児島大学歯学部卒業 |
| 1998 年 2 月 | 歯学博士取得 (Odont.Dr. スウェーデン・イエテボリ大学歯学部) |
| 1998 年 5 月 | 鹿児島大学歯学部歯科保存学第二講座助教 |
| 2000 年 4 月 | 鹿児島大学歯学部附属病院歯周病科講師 |
| 2002 年 4 月 | 鹿児島大学歯学部歯科保存学第二講座助教授 |
| 2004 年 12 月 | 北海道医療大学歯学部歯科保存学第一講座 (現 口腔機能修復再建学系 歯周歯内治療学分野) 教授 (～現在に至る) |
| 2009 年 4 月 | 北海道医療大学歯科内科クリニック (現 歯科クリニック) 院長 (～2019 年 3 月) |
| 2019 年 4 月 | 北海道医療大学歯学部長 (～現在に至る) |
-

大学のニュース

■北海道医療大学歯学部■

第68回 JADR 総会・学術大会で IADR Hatton Awards 候補者 (JADR 最終候補者)に選出

11月7日(土)から8日(日)にオンラインにて開催された第68回国際歯科研究学会日本部会(JADR)総会・学術大会において、本学大学院歯学研究科臨床口腔病理学分野所属の大学院生 Durga Paudel さんが、JADR Hatton Awards 2021 二次選考会の結果、日本代表である JADR 最終候補者に選出されました。これにより、世界最大の国際的・学際的な歯学系学会である国際歯科研究学会(International Association for Dental Research; IADR)が主催する2021年度 IADR 学術大会(Boston, U.S.A.)において、世界各地の最終候補者を集めて審査する IADR Hatton Awards へ参加することが決定しました。

北海道医療大学ホームページ(令和2年11月掲載)

本学における多職種連携教育の 取り組みに関する発表が学会賞を受賞

10月10日(土)、本学全学教育推進センター(心理科学部併任)の安部博史教授が、第13回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会において、「いいね賞(学会参加者が選ぶ最優秀演題賞)」を受賞しました。

日本保健医療福祉連携教育学会は、「保健・医療・福祉各分野の連携に基づく教育・研究と実践を推進し、我が国における健康で豊かな長寿社会の発展に寄与するとともに、会員相互の資質の向上と交流を図ること」を目的とした学会で、日本国内における多職種連携教育・チーム医療に関する教育・研究において中心的役割を果たしています。

安部教授は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で遠隔講義を余儀なくされた状況下において、オンデマンド教材を中心とした多職種連携教育を提案し、同内容を「全学的な多職種連携科目における ICT の利用」というタイトルで発表しました。

北海道医療大学ホームページ(令和2年10月掲載)

■岩手医科大学歯学部■

解剖体慰霊祭が行われました

6月27日(土)、大堀記念講堂において、第83回解剖

体慰霊祭が厳かに執り行われ、祖父江学長をはじめとする本学教職員が参列しました。

慰霊祭では105霊の御霊に対する黙祷に続き、祖父江学長による祭詞が捧げられました。その後、学生を代表して歯学部3年の平田諒香さんから「臨床解剖学実習での大変貴重な経験を糧として豊富な知識を身につけ、命あるものへの感謝の気持ちを常に心に抱き、受ける側が求める医療を提供できるようこれから努力し、成長していきます」と慰霊のことばが捧げられました。

最後に、参列者全員による献花が行われ慰霊祭が終了しました。



祭詞を捧げる祖父江学長



慰霊のことばを捧げる歯学部3年平田さん



献花を行う参列者

岩手医科大学報 vol.526(令和2年7月発行)

全人的医療基礎講義が行われました

7月3日(金)、大堀記念講堂において、祖父江学長から全学部1学年を対象とした全人的医療基礎講義が行われました。例年、この講義は全学部大堀記念講堂に集まり行われていましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、医学部は大堀記念講堂、歯・薬学部は東1-A講義室、看護学部は西1-A講義室において、Zoomによる3拠点の遠隔講義にて実施されました。祖父江学長は本学の歴史や建学の精神、医療系大学での学びについて解説され、学生たちは普段聞くことのない貴重な講演を熱心に聴講していました。



医学部会場(大堀記念講堂)



歯・薬学会会場(東1-A講義室)



看護学会会場(西1-A講義室)

岩手医科大学報 vol.527 (令和2年8月発行)

第53回動物慰霊祭が行われました

10月26日(月)、矢巾キャンパス大堀記念講堂において、第53回動物慰霊祭が執り行われ、祖父江学長をはじめとする本学教職員が参列しました。式では、昨年度教育及び研究により供された動物に対する黙祷の後、祖父江学長から「尊い生命を捧げた実験動物に深く感謝し、このいのちを無駄にしないよう努力する」と慰霊のことばがあり、続いて学生を代表し、薬学部4年石崎仁鵬さんから「動物実験を行うにあたりいのちを差し出してくれた動物たちの供養のためにも、実験を通して学んだ知識・技能をもって、社会に貢献する医師・歯科医師・薬剤師になりたい」と慰霊のことばが捧げられました。続いて、三部篤動物研究センター長から挨拶があり、慰霊祭が終了しました。式終了後、参列者は慰霊柱を参拝し、本学の教育・研究に貢献した実験動物の御霊に感謝するとともに霊が安らかならんことを祈りました。



祖父江学長 慰霊のことば



薬学部4年石崎さん 慰霊のことば

岩手医科大学報 vol.530 (令和2年11月発行)

■奥羽大学歯学部■

献体者合同慰霊式・実験動物供養

6月2日(火)午後1時から郡山市片平町霊鷲山常居寺にて、献体者合同慰霊式と実験動物供養が厳かに執り行

われた。今年度は、新型コロナウイルス感染症が国内で拡大しているため、ご遺族や白菊会会員ならびにご来賓、第2学年全学生の参列は取りやめ、大学関係代表者のみで実施した。常居寺本堂にて読経後、学長式辞、学生代表による追悼の辞、参列者焼香に続き、慰霊碑を参拝し献花した。



奥羽大学報 165号 (No.290) (令和2年6月発行)

自習室の環境整備

学生の学習環境整備と新型コロナウイルス感染予防対策の一環として、9月、中央棟3階の学生自習室に個別ブース型の自習机を110セット設置した。来年度はさらに36セットの自習机を追加し、合計146セットの自習机が整備される計画となっている。

さらに、同じフロアの学生ホールにもテーブルを追加設置し、最大192の座席が確保された。

自習室及び学生ホールは夜11時まで開放しており、学生の学習支援が強化された。



奥羽大学報 166号 (No.291) (令和2年10月発行)

休日・夜間時の自衛消防訓練

9月2日(水)附属病院において、当直および日直担当歯科医師、看護師、事務職員など27名が参加し休日・夜間時の自衛消防訓練が行われた。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、担架による患者搬送訓練は資料をもとに要点・注意事項を確認し、2人法、4

人法、6人法の運び方を説明する訓練とした。また、地震および火災発生時の患者の避難誘導、担架搬送法などについては資料をもとに説明を行った。



奥羽大学報 166号 (No.291) (令和2年10月発行)

病院の売店がリニューアル

ヤマザキショップ奥羽大学店が附属病院の食堂一画に10月19日(月)、従来の売店をリニューアルしてオープンした。パン、お弁当、おにぎり、サラダ、デザート、アイス、飲料など豊富に取り揃えてある。

営業時間は平日は8時10分から午後5時まで、土曜日は9時から午後1時まで、日・祝祭日は休み。一般の人でも利用できる。「コーヒーを飲めたり、スナック菓子など気軽に購入できるのがいい」とフレンドリーコミュニケーションの場としてなかなかの好評だ。



オープンした売店

奥羽大学報 166号 (No.291) (令和2年10月発行)

■明海大学歯学部■

順天堂大学と包括的連携協定を締結

8月5日、明海大学と順天堂大学は、相互の教育・研究および社会貢献活動を通して大学間交流の推進を図るため、包括的連携に関する協定を締結した。協定締結に関する調印式は、順天堂大学本郷・お茶の水キャンパスで執り行われた。

この協定は、教育研究および社会貢献活動の分野で包括的に緊密な協力関係を築き、連携を深めることにより、教育・研究活動の充実、学生教育の質的向上、人材の育成、活力ある地域社会への貢献、教職員の資質向上および大学間の交流などに寄与することを目的としている。

順天堂大学は、本学浦安キャンパスに隣接した高洲地区に医療看護学部を有しているが、さらに至近距離の日の出地区に、「浦安・日の出キャンパス（仮称）」を2022年4月に開設予定。今後本協定の下、両大学がますます友好な関係を築くことが期待される。



調印式での新井—順天堂大学学長(左)と安井利一学長(右)
(撮影のためマスクを外しています)

明海大学と順天堂大学の包括連携に関する協定

(目的)

教育研究及び社会貢献活動の分野で包括的に緊密な協力関係を築き、連携を深めることにより、教育・研究活動の充実、学生教育の質的向上、人材の育成、活力ある地域社会への貢献、教職員の資質向上及び大学間の交流等に寄与することを目的とする

(連携事業)

- (1) 教育・研究の連携に関すること
- (2) 学生の研修・交流に関すること
- (3) 教職員の研修及び交流に関すること
- (4) 単位互換等に関すること
- (5) 施設設備の共同利用に関すること
- (6) その他、目的を達成するために必要な事項に関すること

ホワイトコートセレモニー開催

歯学部および保健医療学部の学生へ白衣を授与し、医療に携わる自覚を促す式典「ホワイトコートセレモニー（白衣授与式）」が、新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じた上で9月と10月に坂戸、浦安の両キャンパスでそれぞれ開催された。

歯学部

歯科医師へのモチベーション向上へ

歯学部では、9月28日に坂戸キャンパスで5年生を対象に開催。5年次から開始される臨床実習に向けて、歯科医師になるためのモチベーション向上を図ることを目的に、学生に白衣の授与を行った。歯学部でのホワイトコートセレモニーは今回が初めての試みとなった。

セレモニーでは、申基喆歯学部長・病院長からの訓示、中村睦夫歯学部同窓会長からの祝辞の後、学生はそれぞれの席に用意された白衣を受け取った。白衣はこの日のために、歯学部同窓会により製作・贈呈されたもので、左胸ポケットにはギリシャ神話に登場する名医アスクレーピオス（Aesculapius）が持つ杖と、国際未来社会で活躍する歯科医師をイメージした地球をモチーフとしたエンブレムが施されている。学生はネーム入りオーダーメイドの白衣を手にし、歯科医師になるための決意を新たにした様子だった。



歯学部生に授与された白衣

保健医療学部

医療従事者としての自覚と責任を

保健医療学部口腔保健学科では10月13日、二期生である1年生を対象に浦安キャンパスで開催。これから、医療従事者としての自覚と責任を持った歯科衛生士をめざしてもらうことを目的として、学生に白衣の授与を行った。一期生を対象に開催した昨年に引き続き、今回で2度目の開催となった。

セレモニーでは、藤内祝保健医療学部長からのあいさつの後、学生を代表して小野瀬結衣さんが登壇し、金久

弥生学科主任から受け取った白衣に袖を通した。小野瀬さんからは「知識と技術を磨き、仲間とともに成長し、医療人としての自覚と責任を持った歯科衛生士をめざします」と宣誓が述べられ、医療人としての第一歩を踏み出したことへの期待に胸を膨らませている様子がうかがえた。



白衣に袖を通す保健医療学部生

MEIKAI NEWS LETTER 第241号（令和3年1月発行）

■東京歯科大学■

第310回東京歯科大学学会（総会）開催

2020年10月17日（土）・18日（日）の両日にわたり、第310回東京歯科大学学会（総会）が開催された。今回はコロナ禍のため、会場では行わずWeb開催とし、Google Meetを使用したライブ配信およびストリーミング配信で実施された。

第1日は、午前10時30分から一般口演7題の発表があり、午後1時から顎骨疾患プロジェクト・東歯学会共催シンポジウム「東京歯科大学における新たな研究の展開」～New research fields of Tokyo Dental College～が開催された。シンポジウムは2つのセッションに分かれ、学内シンポジストによる7講演が行われた。また、例年1日目に行われる評議員会・総会については、メール会議および書面会議で執り行われた。

第2日は、午前10時30分から一般口演7題、午後1時から今年度末に定年を迎えられる本学の4名の教授による特別講演が行われた。特別講演については特に参加者が多数見込まれることから、ライブ配信と共に、TDC-Netアカウントユーザーにはストリーミング配信を行った。

示説発表19題は2日間、学会ホームページ上でWeb掲示が行われた。

なお、例年行われている商社展示は、協力企業としてホームページ上にバナーリンクを掲載し、Web広告形

式とした。

オンラインでの学会開催は東歯学会初の試みであったが、学内のみならず全国からも多くの参加があり、盛会のうちに終了した。

顎骨疾患プロジェクト・東歯学会共催シンポジウム

「東京歯科大学における新たな研究の展開」

～New research fields of Tokyo Dental College～

シンポジウム1

1. Apert 症候群における頭蓋縫合早期癒合メカニズムの解明
歯科矯正学講座 小倉 弘之
2. 破歯細胞形成を負に制御する歯髄環境の解析
口腔科学研究センター 西田 大輔
3. 歯周炎におけるPD-1/PD-L1機構を介したT細胞制御および破骨細胞分化調節の解明
歯周病学講座 今村 健太郎
4. 骨吸収における上皮由来サイトカインの役割
口腔科学研究センター 大野 建州

シンポジウム2

5. 3Dプリンタ成型口腔内フッ化物徐放装置と新規フッ化物応用法の開発
衛生学講座 佐藤 涼一
6. 顎顔面補綴領域における、3D、4D解析を用いた新たな研究の展開
オーラルメディシン・病院歯科学講座 中島 純子
7. マウスにおける脂肪と糖の味覚受容・神経機構
短期大学 安松 啓子

特別講演

1. イノベーションと共に歩む
申 範圭 教授（市川総合病院心臓血管外科）
2. 腎臓病診療・研究へのきっかけと新たな歩み
林 晃一 教授（市川総合病院内科学講座）
3. 形成外科新設後の15年間を振り返って
田中 一郎 教授（市川総合病院形成外科）
4. コロナ禍の中で振り返る東京歯科大学での40年間
矢島 安朝 教授（口腔インプラント学講座）



特別講演の様子



Web 画面の様子

東京歯科大学広報 第300号（令和3年3月発行）

2020 年度解剖諸霊位供養法会

2020 年 11 月 11 日(水)14 時 30 分より、水道橋校舎新館血脇記念ホールにおいて 2020 年度解剖諸霊位供養法会が執り行われた。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で規模を縮小した上での開催となり、井出吉信学長、大学幹部、東京歯科大学白菊会会長および歯学部第2学年学生が参列した。

本学開設以来、歯科医学教育と研究のため、尊いご遺志を持って献体いただいた4千有余柱の諸霊位に対し、深く感謝の意を捧げご冥福をお祈りした。また、真珠院石井道彦導師により誦経が行われ、井出学長が祭文を奉読したのち参列者による献花が行われた。



つづいて、学生を代表して第2学年の高橋和さんより挨拶があり、次にご遺族代表の尼子貴代様よりご挨拶（代読：阿部伸一解剖学講座主任教授）をいただき、本年度の解剖諸霊位供養法会は滞りなく終了した。

東京歯科大学広報 第300号（令和3年3月発行）

台北医学大学口腔医学院と遠隔講義を実施

2020 年 12 月 14 日(月)午後1時より、解剖学講座の阿部伸一教授が、台北医学大学（TMU）口腔医学院、歯学部5年生に対し「Implant Anatomy」の講義を2時間行った。本講座は、阿部教授が毎年 TMU を訪問し、対面にて行っていたが、コロナ禍の中、Zoom を用いて姉妹校の講義を行う初の試みであった。台北医学大学では新型コロナ感染者もいないことから、学生は全員講義室で受講した。日本で講義を進める阿部教授の映像は、右上に小さく示されながらの講義であった。講義中は、インプラント学のカリキュラムを10年以上前から阿部教授と行っている WEI JEN CHANG 教授が教室内でマイクを持ち、阿部教授が質問するとランダムに学生のところに行き、マイクを通して回答させた。マイクを通した回答は、イヤフォンを通じてよく聞き取ることが可能であった。この方式により、教室で全学生が聴講するスタイルの遠隔講義でも、双方向性の活気ある講義が可能であった。今後は、この方式がスタンダードになっていくと思われた。



遠隔講義後の教室の様子

質問にも明るく元気に回答してくれた学生たち（TMU の5年生）

a : 5 年生が講義を受ける教室

b : 筆者（東京歯科大学より）

c : WEI JEN CHANG 教授

東京歯科大学広報 第300号（令和3年3月発行）

カリフォルニア大学ロサンゼルス校 歯学部 / 工学部 西村一郎教授 (ワイントロップ再建生体工学研究所) による遠隔授業を実施

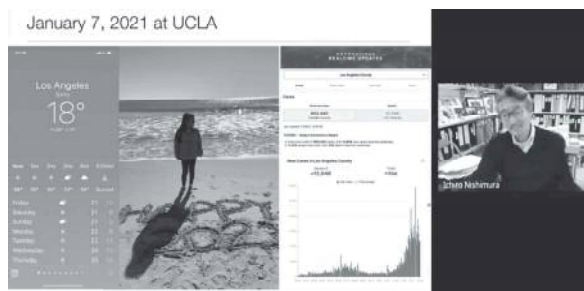
第2学年後期の「歯科医学英語講読」は、さまざまな歯科医学に関連する英文を読み解くとともに、海外での研究生生活を送った経験を持つ学内外の卒業生や留学生の話しを聞くことができる機会となっている。

今回は、海外との交流が制限されている中、初めての試みとして、2021年1月8日(金)午前8時50分(ロサンゼルス現地時間:1月7日(木)午後3時50分)、カリフォルニア大学ロサンゼルス校(以下:UCLA)歯学部のキャンパスと、東京歯科大学水道橋キャンパスさいかち坂校舎を結んで、UCLA 歯学部の西村一郎教授(Tenured professor 終身雇用教授で本学客員教授でもある)によるライブ講義が行われた。

講義は、西村教授のラボから届けられる第一声で始まった。カリフォルニア州における逼迫したCOVID-19のリアルな感染状況と共にスライドに映されるのは、平日なのに誰もいない閑散としたキャンパスや、毎週1回、義務付けられているというPCR検査が行われる広いバスケットボールコート。防護服を身につけた西村教授の姿。学生たちの表情に一瞬、緊張がはしる。

今回の講義のテーマは顔「Embryology of Facial Muscles/Bio-psychosocial Network of Humans」。顔面補綴と顔面移植の実際の画像から始まった講義は、人の視線の動きの研究から、こころの問題にまで踏みこんでいく。歯科の可能性を医学だけでなく工学の面からも見ていく今回の講義は、学生たちの心に、確かな印象を残した。

授業後のアンケートには、講義の中の「歯科医師は顔の専門医」というのは新たな視点で、これまで顎顔面領域について多くを学んできたが、最も重要なのは歯であると思い込んでいたことに気づかされた。患者に寄り添い肉体的・社会的苦痛を除去することが医療従事者の存在意義であることを胸に刻みます。歯科医師が人のために出来ることは広範囲に及ぶのだとわかり、もっと勉強



西村教授による遠隔授業の様子

を頑張ろうと思った。UCLAでは、医科歯科連携が当たり前のようになされていて、驚いた。歯学部卒業後すぐか、研修医後に留学したいと考えていたので、先生が卒業して直ぐハーバード大学院に留学されたと聞いて希望が持てた。自分もこんな風になってみたいと思える話で、色んなことに触れて見聞を広めたくなった。など、感銘を受けた講義への思いが記されていた。

今回、試みられた海外からのweb講義が持つ可能性は大きく、学生や研究者同士の交流などへの応用も含め、今後、web環境の充実と共に大きく広がっていくことが期待される。

東京歯科大学広報 300号(令和3年3月発行)

■昭和大学歯学部■

入試選択科目に国語を採用 インターネット出願導入も

本学は2021年度入学試験から、全学部で行う学校推薦型選抜入試、一般選抜入試Ⅰ・Ⅱ期において、新たに国語を選択科目として採用する。これにより数学もしくは国語のどちらかの科目を選択することとなる。

これは論理的思考力の適切な評価のために新たに採用したもので、学力の3要素「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を入学者選抜段階において多面的・総合的に評価する。

また、全ての入試においてインターネット出願を新たに導入する。従来の紙による出願は廃止し、インターネット出願のみとすることで、願書の取り寄せが不要となるほか、出願登録時に内容のチェックが行われ、不備なく確実な出願が行える。さらに、検定料の支払いについても、クレジットカード、インターネットバンキング、コンビニエンスストアから支払いが可能となる。

※詳細は本学のホームページを参照

<https://adm.showa-u.ac.jp/>

昭和大学新聞 第585号(令和2年9月発行)

新たな教育施設「卒後研修棟」着工 安全祈願祭を執り行う

昭和大学卒後研修棟(仮称)の安全祈願祭が9月29日、旗の台キャンパスの建設予定地で執り行われた。

安全祈願祭には本学関係者一同と施工会社の株式会社東急Re・デザインの関係者一同が参列し、本学を代表して小口勝司理事長が鍬入れの儀と玉串奉奠を行った。

同研修棟は、学部学生や臨床研修医の基本的な手技、専門的な技術等、臨床技能の習得を目指す医療実践能力向上の場、チーム医療の総合的な学修を行うシミュレーション教育の学びの場、ひいては本学の更なる優秀な臨床実地家輩出を目的としている。

建物は地上3階の鉄骨造り、敷地面積 764.22m²、建築面積 494.23m²、延床面積 1458.42m²となる。建物内にはセミナー室やスキルスラボを設置する。完成は、2021年6月の予定である。



安全祈願祭の様子



小口勝司理事長による鍬入れの儀



玉串奉奠の様子

昭和大学新聞 第 587 号 (令和 2 年 11 月発行)

歯科補綴学講座から 2 名受賞

—日本補綴歯科学会第 129 回学術大会—

岩内洋太郎助教と楠本友里子助教（ともに歯学部歯科補綴学講座）が、日本補綴歯科学会第 129 回学術大会（WEB 開催）にて課題口演優秀賞と課題口演賞をそれぞれ受賞した。



(左) 楠本友里子助教、(右) 岩内洋太郎助教

同学会は、顎口腔領域における形態と機能の異常を改善、回復し、もって国民の健康福祉の向上に貢献することを目的に 1933 年に発足し、6,000 名以上の会員を有している。

岩内助教は演題「in vivo におけるデジタル印象法と従来法の顎間関係再現精度についての比較検討」が課題口演分野 1「Smart prosthodontics」で高く評価され課題口演優秀賞を受賞した。楠本助教は演題「無歯顎患者におけるインプラント補綴治療法の違いが口腔関連 QoL に及ぼす影響」が課題口演分野 2「臨床エビデンス」で高く評価され課題口演賞を受賞した。

岩内洋太郎助教のコメント

この度日本補綴歯科学会第 129 回学術大会におきまして、光栄なことに課題口演優秀賞に選出していただきました。日本補綴歯科学会は歴史も長く、私の父も専門医として所属する学会であり、そのような思い入れの深い学会で受賞出来た事を大変嬉しく思います。

私が所属する歯科補綴学講座は、未だ皆様には馴染みが薄いのですが、口腔内スキャナーを使用して日々の臨床と研究を行っております。その中で咬み合わせを記録する手順があるのですが、その精度にフォーカスして検証し、今まで利用されている石膏模型を使った方法と比較して優れる結果を報告しました。本研究の成果を発表させていただく機会を与えてくださった馬場一美教授、田中晋平講師をはじめ、デジタルチームの皆様に厚く御礼申し上げます。

楠本友里子助教のコメント

近年、“患者さんの視点からみた医療評価”が注目されており、歯科においては“口腔関連 QoL”が重要視されています。本研究ではこの口腔関連 QoL を指標として、

上下無菌顎患者さんを対象に、固定性インプラント補綴装置（固定性）とインプラントオーバーデンチャー（可撤性）について比較検討を行いました。その結果、全般に両者は近似した口腔関連 QoL が得られますが、咀嚼に関しては固定性の方が優れていることが明らかとなりました。本研究結果は、低侵襲の治療が求められる超高齢社会において、治療法を検討する際に大きな示唆を与えるものと考えております。

最後に、本研究の遂行にあたり、御指導を賜りました馬場一美教授をはじめ、多大なる御助言や御協力を賜りました諸先生方に厚く御礼申し上げます。

昭和大学新聞 第587号（令和2年11月発行）

富士吉田キャンパスの思い出

全寮制による初年次教育を行う富士吉田キャンパスから11月2日、学生が退寮した。今年度は新型コロナウイルス禍により入寮が延期となり、入寮式がおおよそ5か月遅れの8月31日に執り行われたため、約2か月間の寮生活となった。

最終日前日にはハロウィンパーティーを開催し、1年生は最後の思い出を作り、翌日に名残惜しみながら富士吉田の地を後にした。



歯学部1年
竹澤蘭々

新型コロナウイルス感染症の流行により、私たちは前期授業のオンライン受講を余儀なくされました。当時は、入学したばかりということもあり、友達をつくることもできず、ただただ課題に追われる日々を過ごしていて心身ともにかなり追い込まれていました。

しかし、8月末に入寮してから、これまでの生活とは一変してとても充実した日々を送れるようになりました。なかでも印象に残っているのは、初年次体験実習です。その第1期に行われたPBLチュートリアルでは、ある与えられたテーマについてグループで議論したうえで、問題解決に導くといったワー

クを行い、将来のチーム医療に必要な多職種連携の基盤を身に付けることができました。さらに、第2期に行われたBLS実習では、人形を使って胸骨圧迫や人工呼吸の方法を、実践を交えながら学ぶことができました。また、第3期に行われた学部実習でも、グループディスカッションやエプロン掛けの練習などを行い、3年次実習において必要な知識の基礎を学ぶことができました。

これらは、自宅では決して体験することのできない、貴重な経験であったと思います。今回の初年次体験実習を通して学んだことをこれからの学修に活かし、将来歯科医師として患者さんに質の高い医療を提供できるよう、日々勉学や実習に精進していきたいと思っています。

昭和大学新聞 第588号（令和2年12月発行）

日本大学歯学部

前期遠隔授業を終えて

遠隔授業小委員会委員長 松本 邦史

他学部在先立ち第5、6学年を対象に遠隔授業の試験運用を開始した直後、5月11日から全学年での全面遠隔授業の実施が決まりました。埃のかぶったPCやモニターも総動員し、どうにかGW中に全学年分の計8配信ブースについてセットアップが完了しました。本学部の遠隔授業のシステムは、学生の皆さんが迷うことなく、日程確認、資料配布、受講、質問、フィードバックまでをシームレスで行えることを重視し、システム構築を行っています。幸い本学では、教育機関用Googleサービスを利用できたことで、予想以上のシステムが出来上がったと思います。一部学年では、双方向ビデオシステムを用いたグループワークやオンライン実習のほか、eラーニングシステム（SATT）を併用した平常試験やポストテストが行われています。

教員も慣れない作業だったため、授業中にさまざまなトラブルがあったことは、学生の皆さんも画面の向こうから気が付いていたと思います。学生の皆さんは、やはりデジタルネイティブと言われるだけあって、設定に関わる指示をいとも簡単に完遂してくれました。対面授業



とは大きく異なる環境で、勉強に集中できないなどの声も散見されますが、9割超の学生の皆さんに「満足」以上の評価を頂いたことは、教員、職員が丸となって遠隔授業に取り組んでいる結果と考えています。また、歯学部は遠隔授業がより良いものとなるよう、今後も意見や要望をお待ちしています。後期より一部で対面授業が実施されますが、このwithコロナ時代を乗り越えるため、遠隔授業と対面授業のそれぞれの利点をうまく利用し、効率的に学修して、自分の目標に向かって頑張りたいと思います。(准教授 歯科放射線学講座)

桜歯ニュース 第208号(令和2年10月発行)

■ 日本大学松戸歯学部 ■

令和2年度 大学院3年次 研究経過報告会

大学院担当 三枝 禎

令和2年度大学院3年次研究経過報告会は、7月9日(木)・10日(金)午後3時より、「GoogleMeet」を用いた初のオンライン配信(410教室から)とライブ上映(MDホール)で開催されました。初日の小方研究科長の開会挨拶に続き、2日間で17名が発表。9日は92名、10日は67名の合計159名余が視聴し、昨年の参加者数を上回りました。

社会人大学院生の場合、遠くは沖縄からの発表もあり、学内はもちろん職場や自宅でも大過なく視聴・参加できたことから、コロナ禍の今、遠隔の大学院生に学修の機会を提供し得ることを教職員共々確認できました。

発表に対する質疑応答が盛り上がるシーンもありました。運用、座長、発表者、参加者の様々な立場で本報告会を経験する機会を提供できたことは、開催後のアンケート調査で多数の建設的な回答を頂けたとともに、今後の研究経過報告会を通じた大学院教育の充実に繋がるものでした。



MDホールにおけるライブ上映の様子

松戸歯ニュース 第175号(令和2年9月発行)

令和2年度第4回オープンキャンパス —「ハイブリッド型」で開催—

10月18日(日)、第4回オープンキャンパスが開催された。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響から、第1回から第3回まで「Web開催」としていたが、「実際に施設だけでも見学させてもらえないか」という希望を複数いただいていたことから、第4回は、これまで同様のWebでの動画配信・個別進学相談とともに、希望者には施設見学と個別進学相談を対面で行う「ハイブリッド型」で開催することとなった。

施設見学は完全事前予約制とし、入構時の手指消毒、検温、マスク着用など、新型コロナウイルス感染防止策を徹底した上で実施した。また、三密状態を避けるため、集合時刻を分散させ、同伴者も1名までに制限した。

当日は、事前予約をされた10組20名が松戸歯学部へ来校され、施設見学や個別進学相談を実施した。

検温・消毒等の感染対策も混乱なくスムーズに行われ、参加者からは概ね好評であった。



1組に対し1名の教員が担当し、少人数で施設見学を実施



個別進学相談スペースには、ビニールシートを設置

松戸歯ニュース 第176号(令和3年1月発行)

■ 日本歯科大学生命歯学部 ■

発生・再生医科学講座 英国 幹細胞専門誌に発表

生命歯学部発生・再生医科学講座の望月真衣助教と中原貴教授らの研究チームは、歯髄幹細胞の新たな培養法の確立に成功し、英国の幹細胞専門誌『Stem Cell Research & Therapy』(2020年7月14日)に発表した。本研究成果は、同日付けの日本歯科新聞(第2118号)にも紹介された。論文題名は「コラーゲンをを用いたヒト歯髄幹細胞の無血清培養法の確立(英文題名は、下記抜粋論文名通り)」。

中原教授らの研究チームは、2018年に幹細胞の培養には必須とされるウシ胎仔血清(FBS)を用いない無血清培養法によって、歯髄組織からの幹細胞の分離と大量培養に成功した。ところが、同培養法は、過度に培養を続けるとシート化して細胞の増殖能に破綻をきたし、細胞死を生じることが問題であった。

このたびの研究では、コラーゲンを培養皿に塗布することで、歯髄幹細胞の接着を促進して活発な増殖を維持し、通法培養の約2倍の細胞数が得られた。さらに、シート化しても細胞死が生じず、幹細胞特性と正常な染色体を維持しており、細胞のがん化(腫瘍化)も見られなかった。

現在の幹細胞の培養には、FBSを添加した培養液が使用されるが、プリオンやウイルスなどの感染や異種抗原に対する免疫反応の恐れがあり、再生医療のリスク要因の一つとなっている。コラーゲン塗布という簡便な手法で、効果的な無血清培養に成功したことで、本学が進める「歯の細胞バンク」への応用も可能なことから、将来の安全な再生医療への貢献が期待される。



掲載論文URL: <https://stemcellres.biomedcentral.com/articles/10.1186/s3287-020-01776-7>

日本歯科大学新聞 第665号(令和2年9月発行)

木場寮を改修

東京・江東区にある木場寮は、1994年(平成5)に鹿

島建設株式会社の男子寮として建設された。本学ではその建物を2001年に購入し、生命歯学部と東京短期大学の女子寮として、冷暖房完備、キッチン、バス、トイレ付の完全個室84室に改修した。

すでに築25年が経過し、設備・内装等の老朽化がみられることから、1階のラウンジ、研修室等の空調、照明設備および内装改修工事を行い、本年3月末に完了した。また什器備品も更新した。

木場寮は、地下鉄東西線「木場」駅から徒歩5分で、通学時間約30分という便利な場所にある。防犯対策として、エントランスは防犯カメラ完備、指紋認証式ドアロックなどを設置。また寮母が常駐しており、留守中の荷物の受け取りなど様々な面で生活をサポートしている。



日本歯科大学新聞 第665号(令和2年9月発行)

■ 日本歯科大学新潟生命歯学部 ■

バランス栄養食缶詰を開発

新潟生命歯学部食育・健康科学講座では、玄米がゆの缶詰「1缶バランス栄養食」を開発した。本学創立者の中原市五郎先生は著書「日本食養道」の中で食養の重要性を説いている。同書に収載された献立にも使用されている日本古来の食材を用いて、同講座の中野智子客員教授が「バランス栄養食」を監修した。

国産素材にこだわり、玄米と小豆、大豆、ハトムギを配合し、塩で味付けしている。離乳食や病後の回復などにも最適で、タンパク質やミネラル、食物繊維がバランスよく補える。3年間ほど保存でき、地元紙「新潟日

報」の9月29日号でも紹介された。

また、中野客員教授は、8月末に「よだれ先生の「超実践講義」「噛む」からはじめる「食育の新常識」高齢者&介護ケア編」を刊行した。

同書では、オーラルフレイルや高齢者の口腔内管理についても述べている。



日本歯科大学新聞 第666号（令和2年11月発行）

■ 神奈川歯科大学 ■

唾液力！

神奈川歯科大学副学長 口腔科学講座教授 梶木恵一

唾液には、自浄作用、抗菌作用、再石灰化作用など多岐にわたる機能があります。これらの機能だけでなく、抗酸化作用や細胞の活性化作用などの新たな役割の発見が続いており、唾液の作用に注目が集まっています。唾液は、99%が水分で、自浄作用を充分働かせるには量の存在が欠かせません。一方、唾液には残りの1%の中に機能性の高い物質が含まれ、これが多様な役割を演じ健康に貢献しているのです。最近、これらの唾液の作用の事を唾液力と呼ばれるようになってきました。唾液力は、普段の生活の中で高めることができます。

唾液の質 チェックシート	はい	いいえ
● ヨーグルトなどの発酵食品をあまり食べない	☐	☐
● 冷たい飲み物や食べ物をよく摂取する	☐	☐
● 人よりごはんを早く食べ終わってしまう	☐	☐
● 脂っこいものや肉が好き	☐	☐
● 体操や散歩など簡単にできる運動でも面倒くさくてほとんどしない	☐	☐
● よく便秘になる あるいは下痢になる	☐	☐

● 3個以上ついた人は唾液の質が落ちている可能性があります

学校法人神奈川歯科大学新聞 第38号（令和2年9月発行）

まぼろしの応援歌

今年4月から放送のNHK朝ドラ「エール」のモデルとなった古関裕而氏が、本学の校歌を作曲されていることはご存知でしょうか。今回の朝ドラ関連で「古関裕而作曲一覧」等が本学に届き、そこには「神奈川歯科大学

校歌、応援歌」と記載されていました。残念なことに「応援歌」の存在を知る教職員が現在は誰一人おりませんでしたが、幸いなことに第1回、第2回卒業アルバムに譜面と共に掲載されていました（表紙写真）。今回のことをきっかけに、56年振りに「応援歌」を復活させたいと思います。準備が整い次第、ホームページでご紹介します。

さて、どのような経緯で校歌を作曲いただいたかは、当時を知る者がいないため不明です。神奈川歯科大学創立20周年記念誌には「勢いのある格調高い校歌も作られた。…日時をかけて作った校歌であった…」と記されています。

ここからは憶測となりますが、本学歯科大学の前身である東京女子歯科医学専門学校の校歌を作詞者西条八十氏と作曲者中山晋平氏へ昭和2年頃に依頼しており、古関氏は両名と交流があったことから、本学の校歌を手掛けていただいた可能性があります。また、古関氏は終戦間際に召集令状が届き、横須賀海兵団に短い間所属されていたようです。稲岡の地が繋がった縁なのかもしれません。

学校法人神奈川歯科大学新聞 第38号（令和2年9月発行）

羽田空港第3ターミナル歯科

院長 川股亮太

2020年5月1日(金)に開院した羽田空港第3ターミナル歯科をご紹介します。当院は国際線ターミナルの誕生と同時に開院した診療所を引き継いだものですが、室内デザインも診療設備も十年の歴史を感じさせない洒落た雰囲気があります。空港が好きだから通っているという患者さんもいらっしゃいます。しかし、利用者の大部分は空港とその関連施設の職員の方々です。少しずつ勤務に戻り始めている職員の方々への聞き取りを反映して、午後8時まで診療したりWeb予約を積極的に活用したりと働く人が通いやすい診療所への模索を続けているところであります。

当院には東京サイバー・サテライトクリニック構想の一翼を担うという使命があります。現在は最小限のスタッフによる体制ですが、国際色豊かな校風と専門家集





団という本学の特性を生かした新しいタイプの診療所へと発展していくという目標を見据えて日々診療を行っていきたいと考えています。

学校法人神奈川歯科大学新聞 第 38 号 (令和 2 年 9 月発行)

PCR 検査の実施

ソフトバンクの調査では、歯科医師は新型コロナウイルスに対する抗体を持つものが 0.7% と報じられ、その値の低さが話題となっています。一方、本学でも、プロジェクトチームを立ち上げ臨床研究として、歯科医療従事者の新型コロナウイルス抗体陽性率の調査を行っています。7 月初旬に、唾液を用いた新型コロナウイルス感染症の PCR 検査を附属病院に勤務する常勤歯科医師と医師 138 名に対して実施し、参加者全ての陰性が確認され、その後抗体検査を行いました。今後、附属病院の歯科医師、医師以外に対してや、横浜クリニックにおいても調査を実施する予定です。



学校法人神奈川歯科大学新聞 第 38 号 (令和 2 年 9 月発行)

■ 鶴見大学歯学部 ■

歯塚供養

6 月 4 日 (木) 11 時 30 分から曹洞宗大本山總持寺境内にある歯塚において、抜去歯に対する感謝の法要が厳修された。

この歯塚供養は、毎年「歯と口の健康週間」に因って行われる行持で、例年であれば、神奈川県歯科医師会や鶴見区歯科医師会の先生方をはじめ、本学教職員、歯学部学生、歯科衛生科学生等が参列焼香するが、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえ、鈴木一馨文学部文化財学科准教授導師のもと学内関係者のみで法要が執り行われた。

鶴見大学報 第 421 号 (令和 2 年 7 月発行)

齋藤一郎歯学部教授 第 109 回日本病理学会総会 日本病理学賞を受賞

この度、病理学講座の齋藤一郎教授が、第 109 回 (令和 2 年度) 日本病理学会 (会員数 4728 名) における宿題報告担当者に出選され「日本病理学賞」を受賞されました。演題名は「唾液腺の障害と修復の病理」で、歯科医師による本賞の受賞は、1911 年 (明治 44 年) の第 1 回から数えて歴代 3 人目という大変な栄誉になります。



日本病理学賞の賞状

斎藤一郎教授は大学卒業以来、一貫して病理学教育、研究、ならびに病理診断に長年従事され、本学附属病院では臨床検査部部長として病理診断はじめ種々の検査業務に携わり、2008年から2012年の4年間は病院長の重責を担われました。特に歯学部における病理学教育に力を入れ、ベスト・ティーチャー賞を2011年より4度受賞されています。

研究活動は口腔乾燥症を呈するシェーグレン症候群の病態解明を目指し、その評価から日本学術振興会科学研究費補助金などの大型研究費を獲得し、日本病理学会学術研究賞、日本シェーグレン症候群学会賞などの受賞によってこれまでの功績が認められています。

本学の教育力・研究力の高さを全国に示す機会となった斎藤一郎教授の受賞を心からお祝い申し上げますと共に、今後の一層のご活躍をお祈り申し上げます。

(歯学部長 大久保 力廣 記)



日本病理学賞の盾

鶴見大学報 第422号 (令和2年10月発行)

■ 松本歯科大学 ■

校友会より母校へ熱い援助

—病院前に診療用テントほか寄贈—

新型コロナウイルス対策の一環として

一般希望者向けに抗体検査を開始

本学は6月4日(木)、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対応として、医療用緊急エアテント3張りを学内に設置した。テントは松本歯科大学校友会の寄贈によるもので、うち1張りは陰圧式エアテント(縦7.5メートル、横4メートル、高さ2.5メートル)。病院前のロータリーに設置され、8日(月)からは同テント内で一般希望者向けに抗体検査を開始した。陰圧テント後方にはトイレ用トレーラーハウスを設置して利便性を向



大学病院前のロータリーに設置された陰圧式エアテントとトイレ用トレーラーハウス



大学本館入口のサーマルカメラ



体表面温度が表示されたパソコン画面

上させ、病院と大学の各入口には高精度人体検温システムを導入して非接触で温度検知できる態勢を整え、COVID-19 防疫対策を強化した。

Campus Today 第438号(令和2年7月発行)

キャンパス内の芝地で活躍！ 一賢くてけなげな働き者— スウェーデン製自動芝刈り機

10月2日(金)より、本学に自動芝刈り機2台が導入された。土日の休日でも雨の日も本部館前の東と西の芝地を動き回って芝を刈っている。

スウェーデンにあるオートバイやチェーンソーなどのメーカー・ハスクバーナ(Husqvarna)のロボット芝刈り機で、黒くてLEDライトがトレードマークのAUTOMOWER430Xとオレンジ色で足の速いAUTOMOWER550。

充電式になっていてバッテリーが減ってくると自分で充電器まで戻り、充電が終わるとまた芝刈りに戻る、とても賢い働き者。430Xは1日3200m²、550は5000m²も芝を刈り、GPSを利用して自分の位置を把握し、刈り残しのないようにけなげに動いている。障害物があるとちゃんと避けて進み、動きもどこか愛嬌がある。

この2台のロボット芝刈り機のおかげで、人手や管理コストも抑え、とてもきれいな芝を維持できるようになっている。



自動草刈り機「AUTOMOWER430X」

Campus Today 第442号(令和2年11月発行)

第7回カムカムメニュー・写真コンテスト 最優秀賞は「W大根ハンバーグ」

松本歯科大学第7回カムカムメニュー・写真コンテストの審査発表が11月24日(火)に本学ホームページ上で行われた。

本学は「よく噛んでおいしく健康に」をテーマに食育活動を推進している。カムカム(噛む噛む)メニューは、食べた人がよく噛むことを意識して食への関心を高

める献立で、同コンテストではメニューを広く市民から募った。

今回は、県内をはじめ東京、大阪、鳥取など県外から全43作品の応募があり、審査の結果、最優秀賞には百瀬彩夏さん(塩尻市)の「W大根ハンバーグ」が選ばれた。「W大根ハンバーグ」は、肉だねに切り干し大根、鶏ひき肉、乾燥ひじきなどを用い、切り干し大根を生のまま使用することで、食材選びと組み合わせの妙があり、噛むことを意識させる点が評価された。



最優秀賞のW大根ハンバーグ

Campus Today 第443号(令和2年12月発行)

冬の夜空を彩るイルミネーション点灯 —「感謝と希望」をテーマにコロナ収束願う—

11月28日(土)、大学病院前のヒマラヤ杉に恒例のイルミネーションが点灯された。今年で28年目を迎えるイルミネーションは、高さ17メートル樹齢約60年のヒマラヤ杉に、ハニーゴールド、薄いブルー、グリーン、レッドのLED球約1万4千球が飾られており、先端には直径40cmのホワイトのワイヤーボールが輝き、冬の夜空を幻想的に彩っている。今年のテーマは「感謝と希望」。医療従事者への感謝の気持ちを薄いブルーで表現し、コロナ収束の願いを込めている。



病院前のヒマラヤ杉に彩られたイルミネーション

Campus Today 第443号(令和2年12月発行)

■朝日大学歯学部■

White Coat Ceremony 2020

歯学部登院式を挙る

6月6日、歯学部5年生の登院式(白衣授与式)が、6号館6201講義室において、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置により、本年は実習生のための参加で縮小して実施されました。この登院式は、5年生が診療参加型臨床実習を始めるにあたり、本格的な実習教育への第一歩を踏み出す節目の行事として位置づけられています。

式典では、大友克之学長の告辞に続き、田村康夫歯学部長(副学長)からの激励のメッセージの後、学生たちは授与された白衣と Student Dentist 認定証(ネームプレート)を身につけると、歯科医師を志す気持ちを新たにしていました。



大友克之学長による告辞

医療人としての決意表明

全員が白衣をまとい、学生代表の久保田理絵さんが「社会的責任と医療人としての自覚を持ち、真摯に実習に取り組みます」と決意表明しました。藤原周医科歯科医療センター長から学生に対して激励の言葉が述べられると、学生らは真剣な面持ちで耳を傾け、いよいよ始まる臨床実習への自覚と期待を胸に登院式を終えました。



白衣を身にまとい医療人としての自覚を持つ

Student Dentist 制度とは、5学年で実施している診

療参加型臨床実習において必要とされる知識、態度及び技能を有している学生に対して、歯科大学学長・歯学部長会議及び Student Dentist 認定運営協議会から認定されるものです。

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第128号

(令和2年7月発行)

臨床系実習室リニューアル

1号館2階臨床系第2実習室の改修工事を実施しました。マルチメディアシステム「デモ撮影装置(HDハイビジョン3CCDカメラ)、高精度資料提示装置、BD/DVDプレーヤー、コントロールPC、液晶ディスプレイ」を刷新しました。本実習室は、歯学部生が歯科理工学、歯科保存学、歯科補綴学、小児歯科学の各基礎実習を学ぶために使用されています。

なお、本改修は、令和元年度私立学校施設整備費補助金(ICT活用推進事業)の交付を受けて実施されました。



歯科医師のスペシャリストを育成する実習室

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第128号

(令和2年7月発行)

メキシコ州立自治大学歯学部生とオンラインで交流

10月30日、メキシコ州立自治大学(UAEM)と朝日大学および姉妹校の明海大学の歯学部生が、例年夏から秋にかけて双方の大学を訪問して行われる学生海外派遣交流が今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で延期されているため、15時間の時差を乗り越えオンラインで交流しました。

今回の交流会で双方の学生は、自己紹介や大学紹介などを行い、今後は研究分野などについて内容を更に発展させて交流することを約束しました。

朝日大学はメキシコ州立自治大学と1993年に協定を締結して以来、学生派遣交流や客員研究員の受入れを行っています。

今年度、メキシコ州立自治大学と朝日大学・明海大学の学生交流は、JST（国立研究開発法人科学技術振興機構）の「さくらサイエンスプラン」に採択されています。



オンライン交流の様子(本学は右上)

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第130号
(令和2年11月発行)

医科歯科医療センターで研修会

安心・安全で質の高い医療提供のための体制づくり

8月5日、医科歯科医療センターに勤務する職員を対象に、2020年度第1回医療安全・院内感染に関する研修会を開催しました。

藤原周医科歯科医療センター長が講師を担当し、医療事故が発生した際の適切な対応方法や院内感染を防ぐ方法について説明しました。

講演の中で、藤原センター長は「インシデントなどが発生した場合、情報を確実に伝達し共有すること。医療施設としての自覚をもち、医療事故を起こさないように、確認しあえる体制づくりが必要」と語りました。

9月3日には、第2回研修会を実施。久米真副センター長が講師を担当し、AEDを用いた救命措置方法などを説明しました。



医療安全について説明する藤原周医科歯科医療センター長

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第130号
(令和2年11月発行)

■大阪歯科大学■

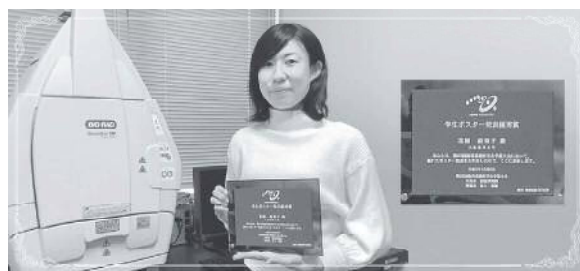
歯学部5年の花岡麻里子さんが 歯科基礎医学会 「学生ポスター発表優秀賞」を 受賞しました

第62回歯科基礎医学会学術大会が9月11日～10月9日、Web開催され、本学歯学部5年の花岡麻里子さんが学生ポスター発表優秀賞を獲得しました。この賞は、将来の歯科基礎医学を担う若い研究者を育成するために設けられているもので、本学学生の受賞は初めて。

今大会の学部学生ポスターには、全国から10の応募・発表があり、抄録とポスターによる一次審査、示説と討論による二次審査が行われました。

花岡さんの受賞演題は「CandidalysinはIL-1 α 分泌を介して上皮細胞を活性化する」。3年次の「研究チャレンジ」以来、指導教員の堂前英資講師（生化学講座）と二人三脚で取り組んできた研究です。

カンジダ症や全身性のカンジダ感染症発症に関与し、感染局所の上皮細胞・自然免疫系を活性化することが解っているCandidalysin。これまでEGFR/c-fosを介して上皮細胞を活性化することが報告されていましたが、花岡さんは「本研究により、Candidalysinによる口腔粘膜上皮細胞活性化機構として、新たにIL-1 α /NF κ B経路の存在が明らかとなった」と発表し、見事優秀賞を手に入れました。



大阪歯科大学ホームページ（令和2年12月掲載）

大阪歯科大学 高大連携プログラム オンライン体験授業を実施しました

2020年10月30日に本学では初の試みとなるオンラインによる高大連携プログラムを実施いたしました。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、オンラインでの実施を余儀なくされたものの、協定校である香里ヌヴェール学院高等学校と共同でWEBを活用した双方向型の体験・体感プログラムを企画しました。

香里ヌヴェール学院高等学校は、PBL (Project Based Learning) を取り入れた探求学習を推進されています。体験プログラムを担当した歯学部細菌学講座も、日ごろからPBLを取り入れた授業を実施しており、両者のコラボレーションによるアクティブ・ラーニング型の授業が実現しました。

当日は、歯学部細菌学講座沖永主任教授と南部講師によるWEB体験プログラムに、香里ヌヴェール学院高等学校グローバルサイエンスコース1年生が参加してくれました。

生徒のみなさんは、沖永教授による微生物に関するWEB講義を受講、引き続き講義の学びをさらに深めるため「質問づくり」(QFT: The Question Formulation Technique) に取り組みました。「役に立たない微生物との違いは?」「細菌はどのようにして全身に広まりますか?」「微生物は特定の場所でしか生きられないのか?」などたくさんの質問が作られました。

グループで作った質問を発表した後は、本学の教員による回答タイムがあり、「これは世界中の研究者がテーマにしているような質問だよ!」「解明できたらノーベル賞が取れるほど、世界中の研究者も注目するテーマですよ」など大いに盛り上がりました。最後に沖永教授より、探求学習は日々の研究や大学の授業でも取り入れている手法であることが紹介されました。

オンラインでの体験授業は初の試みでしたが、生徒の皆さんの協力もあって、有意義な時間を過ごすことがで



写真・上：オンライン講義中の本学・沖永主任教授(右側手前)と南部講師(右側奥)

写真・下：オンラインで探求学習を体験する香里ヌヴェール学院高校の生徒のみなさん

きました。

大阪歯科大学ホームページ 令和2年11月掲載

■福岡歯科大学■

学校法人福岡学園の 役員・評議員を改選 水田祥代氏を理事長に再任

任期満了に伴う本学園の理事・監事・評議員の改選が令和2年7月21日及び令和2年8月3日に開催された理事会、評議員会で行われ、理事12名、監事2名、評議員27名が決まりました。また、理事長に水田祥代氏が、常務理事に田口智章氏が選任されました。

なお今期より新たに新理事として樗木晶子氏、新評議員として平田泰彦氏、中四良氏が選任されました。



水田祥代 理事長

福岡学園広報誌 Vol.28 No.4 (第108号)
(令和2年9月発行)

福岡歯科大学医科歯科総合病院 9月29日新病院開院

令和元年1月に着工し、建替え工事中だった「福岡歯科大学医科歯科総合病院」の新病院が完成し、令和2年9月13日には、新型コロナウイルスの感染対策を徹底しながら、開院記念式典ならびに内覧会を行いました。開院記念式典では、自治体・連携医療機関の関係者が列席し、水田祥代理事は同病院が無事完成したことを祝い、完成までに協力いただいた方々に感謝の意を述べるとともに、「子どもから高齢者まで幅広い患者層に対して、良質で高度な医療を提供し、大学病院として信頼される高度医療に加え、かかりつけ医のような地域に頼られる地域医療センターの役割を担う病院として教職員一同、努力してまいります。」とこれからの決意を述べました。

新医科歯科総合病院は、地上5階建てで多機能画像センサーによる大診療室の照明・空調制御、井水利用などを採用し省エネ、省CO₂を実現しています。



新病院外観



開院記念式典の様子

福岡学園広報誌 Vol.28 No.4 (第108号)

(令和2年9月発行)

福岡歯科大学医科歯科総合病院に 健診センターを開設

令和2年9月29日、新しい医科歯科総合病院の開院と共に健診センターが開設されました。口腔の健康は、生活習慣病や認知症・フレイルの予防に繋がり、口腔の健康を増進することによって全身の健康も維持できます。本院の健診センターでは、口腔健診を含む福岡歯科大学ならではの健診を目指し、地域に根ざした健診を広めていきます。

口腔健診では、パノラマエックス線撮影を行い「齲蝕・歯周病」のチェックのみならず「口腔粘膜、唾液分泌量や口腔機能、顎関節検査」などを実施し、オプションで「口臭検査や唾液の詳細な検査」も用意しています。

通常の健診では法定健診、定期健診、健保健診、生活習慣病健診などを行うと共に、オプションで脳ドック、骨塩定量、胃内視鏡検査、眼底・眼圧検査、乳癌、認知機能や睡眠時無呼吸検査、腫瘍マーカー検査、便潜血、甲状腺検査、肝炎ウイルス検査など本院で可能な健診項目を用意しました。

健診センターは、医科歯科総合病院内のさまざまな診療科と連携し、運営を行っています。



【健診センター センター長】 理事 榑木晶子



【健診センター副センター長】 教授 米田雅裕

福岡学園広報誌 Vol.28 No.4 (第108号)

(令和2年9月発行)

福岡歯科大学成育小児歯科学分野が 実習用小児患者型ロボットを共同開発

福岡歯科大学成育小児歯科学分野では、株式会社テムザック（本社：福岡県宗像市）とともに世界初の小児患者型ロボットの開発を行いました。

開発された小児患者型ロボット「さくら」は、歯科治療中の小児患者の動きをリアルに再現できる人型のシミュレーターロボットです。小児特有の診療拒否や、暴れる状況、歯科治療中に起こる体調不良、容態の急変を再現し、実際の訓練が難しい緊急時の対応を疑似体験することで、高度な臨床技能や問題解決能力を身につけることが可能になります。

小児患者型ロボットを導入した歯科および医学教育は、小児医療における安全・安心な医療行為の基礎となる画期的な試みであり、こうした危機管理実習は世界初の試みとなります。



実習の様子

福岡学園広報誌 Vol.28 No.4 (第108号)

(令和2年9月発行)

協会役員・部会・委員会名簿

一般社団法人 日本私立歯科大学協会役員名簿

役 職 名	氏 名	所属大学および役職名
会 長	三 浦 廣 行	岩手医科大学副学長・歯学部長
副 会 長	大 友 克 之	朝 日 大 学 学 長
副 会 長	本 田 和 也	日 本 大 学 副 学 長・歯学部長
副 会 長	藤 井 一 維	日 本 歯 科 大 学 学 長
専務理事	羽 村 章	日本歯科大学生命歯学部教授
常務理事	櫻 井 孝	神 奈 川 歯 科 大 学 学 長
常務理事	高 橋 裕	福 岡 歯 科 大 学 学 長
常務理事	一 戸 達 也	東 京 歯 科 大 学 副 学 長
常務理事	榎 宏太郎	昭 和 大 学 歯 学 部 長
理 事	大 野 敬	奥 羽 大 学 歯 学 部 長
理 事	川 添 堯 彬	大阪歯科大学理事長・学長・歯学部長
理 事	大久保 力 廣	鶴 見 大 学 歯 学 部 長
理 事	古 市 保 志	北 海 道 医 療 大 学 歯 学 部 長
理 事	宮 田 淳	明 海 大 学 理 事 長
理 事	小 方 頼 昌	日 本 大 学 松 戸 歯 学 部 長
理 事	矢ヶ崎 雅	松 本 歯 科 大 学 理 事 長
理 事	後 藤 滋 巳	愛 知 学 院 大 学 歯 学 部 長
監 事	牧 村 正 治	日 本 大 学 名 誉 教 授
監 事	菱 田 健 治	朝 日 大 学 監 事

(R3.3.31 現在)

教育・研究部会

部会長：櫻井 孝
日本私立歯科大学協会常務理事
神奈川歯科大学学長

氏 名	大 学 名・役 職 名
古 市 保 志	北海道医療大学歯学部長
岸 光 男	岩手医科大学歯学部教務委員長
大 野 敬	奥羽大学歯学部長
申 基 喆	明海大学歯学部長・病院長
橋 本 正 次	東京歯科大学副学長
檜 宏太郎	昭和大学歯学部長
今 村 佳 樹	日本大学歯学部学務担当
小見山 道	日本大学松戸歯学部学務担当
沼 部 幸 博	日本歯科大学生命歯学部長
藤 井 一 維	日本歯科大学学長
槻 木 恵 一	神奈川歯科大学副学長
早 川 徹	鶴見大学歯学部教務・学生部長
宇田川 信之	松本歯科大学歯学部長
田 村 康 夫	朝日大学副学長・歯学部長
後 藤 滋 巳	愛知学院大学歯学部長
田 中 昭 男	大阪歯科大学常務理事・副学長・教務部長
稲 井 哲一朗	福岡歯科大学学生部長

(R3.3.31 現在)

病 院 部 会

部会長：檜 宏太郎
日本私立歯科大学協会常務理事
昭和大学歯学部長

氏 名	大 学 名・役 職 名
川 上 智 史	北海道医療大学病院副病院長
佐 藤 和 朗	岩手医科大学岩内丸メディカルセンター歯科医療センター長
杉 田 俊 博	奥羽大学歯学部附属病院長
申 基 喆	明海大学歯学部長・病院長
片 倉 朗	東京歯科大学水道橋病院長
馬 場 一 美	昭和大学歯科病院長
飯 沼 利 光	日本大学歯学部付属歯科病院長
河 相 安 彦	日本大学松戸歯学部付属病院長
三 代 冬 彦	日本歯科大学附属病院長
山 口 晃	日本歯科大学新潟病院長
井 野 智	神奈川歯科大学附属病院長
五 味 一 博	鶴見大学歯学部附属病院長
亀 山 敦 史	松本歯科大学病院副歯科病院長
藤 原 周	朝日大学医科歯科医療センター長
長 尾 徹	愛知学院大学歯学部附属病院長
中 嶋 正 博	大阪歯科大学附属病院長
阿 南 壽	福岡歯科大学医科歯科総合病院長

(R3.3.31 現在)

経 営 部 会

部会長：大友 克之
日本私立歯科大学協会副会長
朝日大学学長

氏 名	大 学 名・役 職 名
鈴 木 英 二	北海道医療大学副理事長
高 橋 真	岩手医科大学事務局長
齋 藤 高 弘	奥羽大学事務局長
中 山 浩 之	明海大学事務局長
若 井 祐 次	東京歯科大学法人事務局内部監査室長
倉 口 秀 美	昭和大学学事部長
石 崎 和 文	日本大学歯学部事務局長
沼 子 博	日本大学松戸歯学部事務局長
谷 村 龍 三	日本歯科大学経理部長
若 槻 紀 寿	日本歯科大学新潟生命歯学部事務部長
菅 原 光 則	神奈川歯科大学法人事務局長
藤 澤 文 有	鶴見大学総合企画部長
廣 瀬 國 基	松本歯科大学事務局長
田 中 聡	朝日大学事務局長
松 井 幸 雄	愛知学院大学歯学部事務部長
下 村 錢三郎	大阪歯科大学常務理事
井 手 孝 行	福岡歯科大学事務局長

(R3.3.31 現在)

広報委員会

委員長：高橋 裕
日本私立歯科大学協会常務理事
福岡歯科大学学長

氏 名	大 学 名・役 職 名
長 原 利 明	北 海 道 医 療 大 学 事 務 局 長
近 藤 敬	岩 手 医 科 大 学 歯 学 部 教 務 課 長
中 葉 利 男	奥 羽 大 学 事 務 長
高 山 裕 子	明 海 大 学 歯 学 部 庶 務 課 長
橋 本 貞 充	東 京 歯 科 大 学 広 報・公 開 講 座 部 長
中 谷 謙 太	昭 和 大 学 総 務 部 総 務 課 係 員
山 崎 和 彦	日 本 大 学 歯 学 部 庶 務 課 長
田 中 哲 弘	日 本 大 学 松 戸 歯 学 部 庶 務 課 長
田 口 潤	日 本 歯 科 大 学 生 命 歯 学 部 庶 務 部 長
本 宮 由 比 子	日 本 歯 科 大 学 新 潟 生 命 歯 学 部 庶 務 部 長
熱 田 由 美 子	神 奈 川 歯 科 大 学 総 務 部 秘 書 課 長
平 野 司	鶴 見 大 学 総 務 部 総 務 課 長
廣 瀬 國 基	松 本 歯 科 大 学 事 務 局 長
額 額 力	朝 日 大 学 入 試 広 報 部 入 試 広 報 課 長
日 比 茂 久	愛 知 学 院 大 学 歯 学 部 次 長
松 村 誠 一	大 阪 歯 科 大 学 管 理 部 長
城 戸 寛 史	福 岡 歯 科 大 学 医 科 歯 科 総 合 病 院 副 病 院 長

(R3.3.31 現在)

受験生確保対策委員会

委員長：本田 和也
日本私立歯科大学協会副会長
日本大学副学長・歯学部学長

氏 名	大 学 名・役 職 名
古 市 保 志	北 海 道 医 療 大 学 歯 学 部 長
佐々木 光 章	岩 手 医 科 大 学 学 務 部 次 長
渡 邊 克 己	奥 羽 大 学 歯 学 部 教 務 課 長
伊 藤 敦	明 海 大 学 歯 学 部 事 務 部 長
船 山 雅 史	東 京 歯 科 大 学 教 務 課 長
中 村 武 彦	昭 和 大 学 入 学 支 援 課 長
横 田 正	日 本 大 学 歯 学 部 教 務 課 長
田 中 祐 司	日 本 大 学 松 戸 歯 学 部 教 務 課 長
中世古 大 介	日 本 歯 科 大 学 生 命 歯 学 部 教 務・学 生 部 副 部 長
五十嵐 謙 介	日 本 歯 科 大 学 新 潟 生 命 歯 学 部 教 務 部 係 長
菅 谷 彰	神 奈 川 歯 科 大 学 副 学 長・教 学 部 学 生 担 当 部 長
西 村 勇 気	鶴 見 大 学 入 試 セ ン ター 事 務 長
宇田川 信 之	松 本 歯 科 大 学 歯 学 部 長
香 田 肇	朝 日 大 学 歯 学 部 事 務 課 長
日 比 茂 久	愛 知 学 院 大 学 歯 学 部 次 長
田 中 昭 男	大 阪 歯 科 大 学 常 務 理 事・副 学 長・教 務 部 長
稲 井 哲 一 朗	福 岡 歯 科 大 学 学 生 部 長

(R3.3.31 現在)

研修委員会

委員長：櫻井 孝
日本私立歯科大学協会常務理事
神奈川歯科大学学長

氏 名	大 学 名・役 職 名
長 原 利 明	北 海 道 医 療 大 学 事 務 局 長
近 藤 敬	岩 手 医 科 大 学 歯 学 部 教 務 課 長
中 葉 利 男	奥 羽 大 学 事 務 長
伊 藤 敦	明 海 大 学 歯 学 部 事 務 部 長
若 井 祐 次	東 京 歯 科 大 学 法 人 事 務 局 内 部 監 査 室 長
丸 地 伸	昭 和 大 学 人 事 部 長
佐々木 孝 全	日 本 大 学 歯 学 部 事 務 長
田 中 哲 弘	日 本 大 学 松 戸 歯 学 部 庶 務 課 長
高 橋 孝 幸	日 本 歯 科 大 学 生 命 歯 学 部 事 務 部 長
若 槻 紀 寿	日 本 歯 科 大 学 新 潟 生 命 歯 学 部 事 務 部 長
藤 原 剛	神 奈 川 歯 科 大 学 総 務 部 人 事 課 長
藤 澤 文 有	鶴 見 大 学 総 合 企 画 部 長
廣 瀬 國 基	松 本 歯 科 大 学 事 務 局 長
石 本 昭 彦	朝 日 大 学 歯 学 部 事 務 部 長
日 比 茂 久	愛 知 学 院 大 学 歯 学 部 次 長
児 玉 孝	大 阪 歯 科 大 学 法 人 事 務 局 長
川 野 庸 一	福 岡 歯 科 大 学 医 科 歯 科 総 合 病 院 副 病 院 長

(R3.3.31 現在)

歯科医師臨床研修の在り方検討委員会

委員長：一戸 達也
日本私立歯科大学協会常務理事
東京歯科大学副学長

氏 名	大 学 名・役 職 名
川 上 智 史	北海道医療大学病院副病院長
佐 藤 健 一	岩手医科大学歯科医師臨床研修センター長
山 森 徹 雄	奥羽大学歯学部教授
申 基 喆	明海大学歯学部長・病院長
平 田 創一郎	東京歯科大学臨床研修委員長
船 津 敬 弘	昭和大学歯学部教授
外 木 守 雄	日本大学歯学部卒業後教育担当
平 山 聡 司	日本大学松戸歯学部卒業後教育担当
秋 山 仁 志	日本歯科大学生命歯学部臨床研修管理委員長
二 宮 一 智	日本歯科大学新潟生命歯学部臨床研修指導歯科医長
木 本 克 彦	神奈川歯科大学附属病院副病院長・臨床研修センター長
山 口 博 康	鶴見大学歯学部学内教授
宇田川 信之	松本歯科大学歯学部長
藤 原 周	朝日大学医科歯科医療センター長
荒 木 章 純	愛知学院大学歯学部教授
百 田 義 弘	大阪歯科大学学生部長
阿 南 壽	福岡歯科大学医科歯科総合病院長

(R3.3.31 現在)

診療参加型臨床実習の在り方検討委員会

委員長：一戸 達也
日本私立歯科大学協会常務理事
東京歯科大学副学長

氏 名	大 学 名・役 職 名
長 澤 敏 行	北海道医療大学歯学部教授
三 浦 廣 行	岩手医科大学副学長・歯学部長
高 田 訓	奥羽大学歯学部教授
申 基 喆	明海大学歯学部長・病院長
一 戸 達 也	東京歯科大学副学長・千葉歯科医療センター長
長谷川 篤 司	昭和大学歯学部教授
飯 沼 利 光	日本大学歯学部付属歯科病院長
小 宮 正 道	日本大学松戸歯学部付属病院副病院長
五十嵐 勝	日本歯科大学生命歯学部教務部長
海老原 隆	日本歯科大学新潟生命歯学部臨床実習教育委員会副委員長
木 本 茂 成	神奈川歯科大学附属病院副病院長
友 成 博	鶴見大学歯学部教授
亀 山 敦 史	松本歯科大学病院副歯科病院長
石 神 元	朝日大学歯学部臨床実習センター長
長谷川 義 明	愛知学院大学歯学部教務委員長
山 本 一 世	大阪歯科大学附属病院副病院長
阿 南 壽	福岡歯科大学医科歯科総合病院長

(R3.3.31 現在)

附属病院感染対策協議会

議 長：楨 宏太郎
日本私立歯科大学協会常務理事
昭和大学歯学部長

氏 名	大 学 名・役 職 名
永 易 裕 樹	北海道医療大学病院歯科口腔外科医長
八重柏 隆	岩手医科大学歯学部教授
板 橋 仁	奥羽大学歯学部准教授
星 野 倫 範	明海大学歯学部医療安全執行部長
高 野 正 行	東京歯科大学水道橋病院副病院長
代 田 達 夫	昭和大学歯学部教授
米 原 啓 之	日本大学歯学部学部長
山 口 秀 紀	日本大学松戸歯学部付属病院副病院長
石 垣 佳 希	日本歯科大学生命歯学部院内感染予防対策委員長
水 谷 太 尊	日本歯科大学新潟生命歯学部院内感染防止対策委員長
沢 井 奈津子	神奈川歯科大学診療科講師
五 味 一 博	鶴見大学歯学部附属病院長
芳 澤 享 子	松本歯科大学病院副歯科病院長
安 田 順 一	朝日大学歯学部准教授
宮 地 齊	愛知学院大学歯学部准教授
松 本 和 浩	大阪歯科大学講師
橋 本 憲一郎	福岡歯科大学准教授

(R3.3.31 現在)

賛助会員企業

紹

介

コ

ー

ナ

ー



デンツプライシロナ株式会社

デンタルケアをより高品質に、安全に、スピーディーに治療の進化を支えるデンタルソリューション・カンパニーです

1世紀以上において歯科医療をリードし、革新的な製品とサービスを提供してきたデンツプライシロナ。世界最大規模の歯科医療用材料・器械のメーカーとして世界40か国以上で私たちの製品・ソリューションが活用されています。グローバルブランドの強力なポートフォリオのもと、患者さんの歯科治療の質的な向上と、より安全でスピーディーな歯科治療の実現をめざして、価値あるソリューションを多角的に提供してまいります。さらに、各種セミナーの開催やきめ細かなサポートサービスを通して、日本の歯学教育の発展に貢献し、更なるコミュニケーションを深め、歯科学の継続した発展に貢献いたします。

デンタルケアをより高品質に、安全に、スピーディーに。デンツプライシロナが最も大事にしているものは、「患者さん」「教育」「革新的製品」です。

事業内容

歯科医療機器、歯科材料の輸入・製造・販売およびサポートサービスの提供。

世界最大級の歯科医療用製品およびテクノロジーメーカーとして、治療の革新と真価を総合的にサポートいたします。



銀座ショールーム

所在地

〒106-0041

東京都港区麻布台1-8-10 麻布偕成ビル

TEL 03-5114-1001

FAX 03-5114-1038

<https://www.dentsplysirona.com/>

メディア株式会社

「歯科医療のパラダイムシフトをICTの世界から」

メディア株式会社は、1982年の創業以来、歯科電子カルテシステムのパイオニア企業として、様々な歯科医療情報システムを提供し続けてまいりました。

当社の歯科ICT事業は、歯科・矯正歯科から病院歯科、さらには訪問歯科の領域をカバーし、医科歯科連携、地域包括ケアなどの分野に強みを持っています。

わが国は人生100年時代を迎え、健康寿命の延伸は重要な国策の一つになっています。そのような中、健康生活の継続と予防とに関わってきた歯科医療の重要性はますます高まり、「令和3年度介護報酬改定」では口腔衛生、栄養管理、多職種連携などの評価が見直されるとともに、地域に根差した歯科の新しいあり方が求められています。

今後は「オンライン資格確認」の導入を契機として、医療現場のICT化が加速度的に進んでいくと予想されますが、当社は、こうした変革の時代に、ICT事業を通じて歯科医療の発展に貢献するべく邁進してまいります。今後とも宜しくお願い申し上げます。

事業内容

- ・コンピュータソフトウェアの企画・開発・販売ならびに輸出入
- ・コンピュータハードウェアと周辺商品の企画・開発・製造・販売ならびに輸出入
- ・書籍・雑誌の企画・編集・制作・販売
- ・医療用機器類の製造・販売・賃貸借ならびに輸出入



代表取締役社長

辻 啓延

所在地

〒113-0033

東京都文京区本郷3-26-6

NREG 本郷三丁目ビル8F

TEL 03-5684-2510 (代)

FAX 03-5684-2516

<https://www.media-inc.co.jp>

一般社団法人

日本私立歯科大学協会加盟名簿

■加盟大学および学部■

北海道医療大学歯学部
 岩手医科大学歯学部
 奥羽大学歯学部
 明海大学歯学部
 東京歯科大学
 昭和大学歯学部
 日本大学歯学部
 日本大学松戸歯学部
 日本歯科大学生命歯学部
 日本歯科大学新潟生命歯学部
 神奈川歯科大学
 鶴見大学歯学部
 松本歯科大学
 朝日大学歯学部
 愛知学院大学歯学部
 大阪歯科大学
 福岡歯科大学

■賛助会員■

(株) シ ラ ネ
 (株) ヨ シ ダ
 デンツプライシロナ(株)
 長田電機工業(株)
 (株) 東京技研
 (株) ジーシー
 吉田精工(株)
 (株) 八 甕
 サ サ キ(株)
 (株) モ リ タ
 (株) ニ ッ シ ン
 (株) 松 風
 (株) モ リ タ 製 作 所
 日本歯科薬品(株)
 (株) 玉井歯科商店
 (株) A D I . G
 石福金属興業(株)

沖 歯 科 要 材 (株)
 (株) J M O r t h o
 (株) トクヤマデンタル
 (株) ミ ク ロ ン
 (株) モリタ東京製作所
 (株) Y D M
 サンメディカル(株)
 (株) 田中歯科器械店
 医歯薬出版(株)
 (株) ブイ・エス・シー
 日本治水(株)
 (株) E P A R K
 メ デ イ ア (株)

◇編集後記◇

協会広報第81号をお届けします。

今号の巻頭言は、北海道医療大学の古市保志歯学部長からいただきました。

この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

今後とも、協会広報の内容の充実に努めてまいりたいと思いますので、ご意見・ご要望等がございましたら、協会事務局までお寄せくださるようお願いいたします。

広報委員長（協会常務理事）

高 橋 裕

令和3年3月31日発行

日本私立歯科大学協会広報 第81号

発行人 一般社団法人 日本私立歯科大学協会 三浦 廣行

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-9 私学会館別館第二ビル2階

電話 03-3265-9068 FAX 03-3265-9069

協会のホームページアドレス <https://www.shikadaikyo.or.jp>

制作協力：(株) 日本出版サービス

「題字」及び「シンボルマーク」について

【題 字】初代会長 白数美輝雄先生の揮毫

【シンボルマーク】協会の英語表記「Japanese Association of Private Dental schools」の頭文字を図案化（初代専務理事 宮田侑先生による）